

岐阜県の自殺統計

岐阜県精神保健福祉センター

岐阜県における自殺の現状

1 特徴

統計データから見る本県の特徴は次のとおりです。

- 自殺者と自殺死亡率は年々減少傾向にあり、令和2(2020)年は291人となりました(図1)。第3期計画の数値目標283人以下(2023年までに)までには、自殺者を8人以上減少させる必要があります。
- 自殺者数の男女別の年次推移は、女性より男性のほうが高く推移しています(図2)。
- 岐阜県の令和元(2019)年の自殺死亡率は16.3で全国15.7を上回っていましたが、令和2(2020)年の自殺死亡率は15.1で全国16.4を下回り、低い方からの順位は10位となりました(図3)。
- 年齢階級別の自殺死亡率の年次推移は、おおむね減少傾向にありますが、10代、20代、30代の若者の年代で上昇傾向がみられます(図4)。
- 岐阜県性別自殺死亡率の年次推移では、全国と同様に女性の自殺率が上昇しています(図5)。
- 年代別・医療圏域別の自殺死亡率では、男性は、30歳代、40歳代、50歳代の働き盛りの年齢と80歳代以上の自殺率が高い傾向にあり、30歳代、50歳代、70歳代、80歳代では飛騨医療圏が高いです(図6)。女性は、70歳代、80歳代で自殺率が高い傾向にあり、70歳代では飛騨医療圏が高く、80歳代では西濃医療圏で高いです(図7)。
- 若者の自殺死亡率では、男性は、全国同様20歳代より30歳代の自殺率が高い傾向にありますが、西濃医療圏では20歳代より30歳代の自殺死亡率が低いです(図8)。女性は、全国同様30歳代より20歳代の自殺率が高い傾向にありますが、中濃医療圏では30歳代より20歳代の自殺死亡率が低いです(図9)。
- 年齢階級別の死因順位は、総数では15歳～39歳の死因第1位、10～14歳と40～44歳の第2位、45歳～59歳の第3位が自殺であり、若者と働き盛りの年代の上位を占めています(表1)。男性は20歳～44歳では第1位、15歳～19歳では第2位、45～49歳では第3位となっています(表2)。女性は15歳～34歳では第1位、35歳～49歳では第2位、50～54歳では第3位となっています(表3)。
- 自殺者における未遂歴の有無では、男性は6割強の方が自殺未遂歴なく亡くなっていますが、女性は5割弱の方が自殺未遂歴ありで亡くなっています(図10)。
- 原因・動機別では、男性は「不詳」が最も多く、次に「健康問題」「経済・生活問題」が続き、女性では「健康問題」が最も多く、次に「不詳」「家庭問題」と続きます(図11)。
- 職業別自殺者数では、男性は有職者被雇用者・勤め人が最も多く(図12)、女性は無職等・年金等が最も多くなっています(図13)。

【参考】

厚生労働省「人口動態統計」と警察庁「自殺統計」の違い(厚生労働省令和元年版自殺対策白書より)

1 日本における外国人の取扱いの差異

「自殺統計」は、日本における日本人及び日本における外国人の自殺者数としているのに対し、「人口動態統計」は日本における日本人のみを自殺者数としています。

2 調査時点の差異

「自殺統計」は、捜査等により、自殺であると判明した時点で、自殺統計原票を作成し、計上しているのに対し、「人口動態統計」は自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明の時は原因不明の死亡等で処理しており、後日原因が判明し、死亡診断書等の作成者から自殺の旨訂正報告があった場合には、遡って自殺に計上しています。

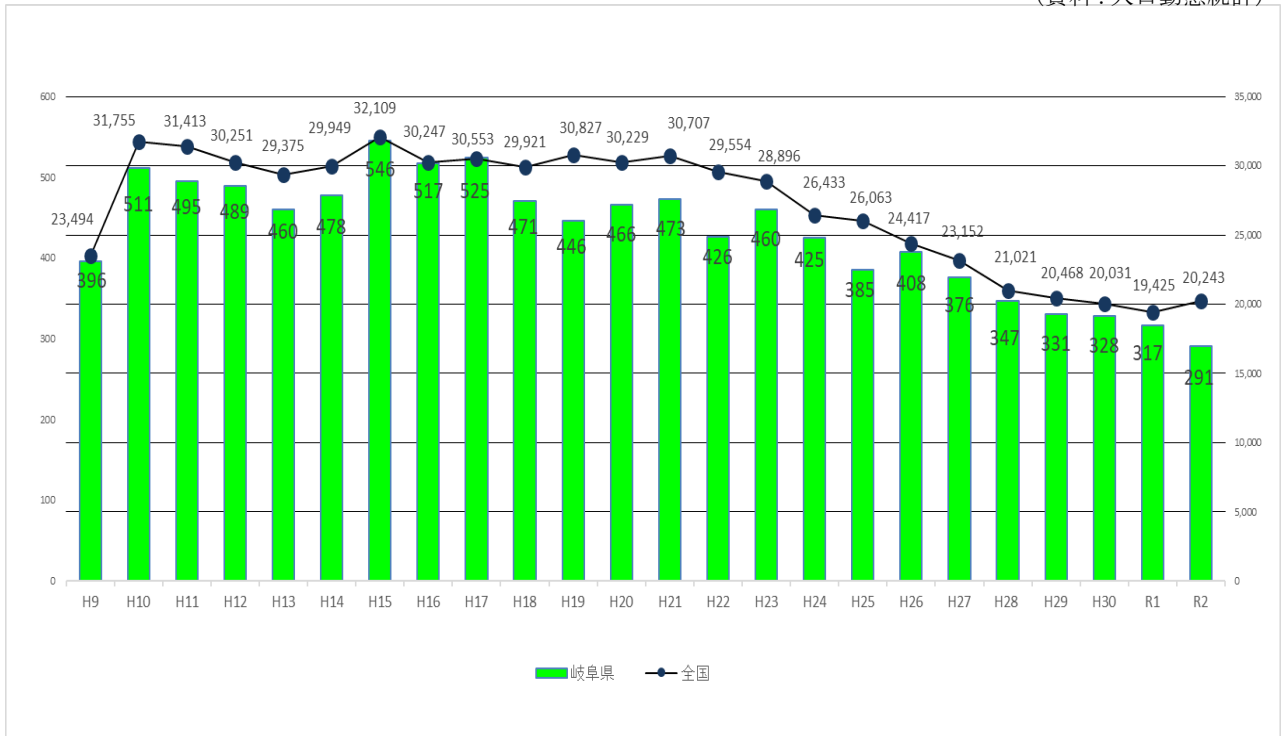
2 統計データからみる岐阜県の自殺の現状

(1) 自殺者数の推移

- ・岐阜県の自殺者数は全国の傾向と同様に平成10年に急増しましたが、長期的にみると年々減少傾向にあり、令和2(2020)年は291人となりました(図1)。
- ・自殺者数の男女別の年次推移は、女性より男性のほうが多く推移しています(図2)。

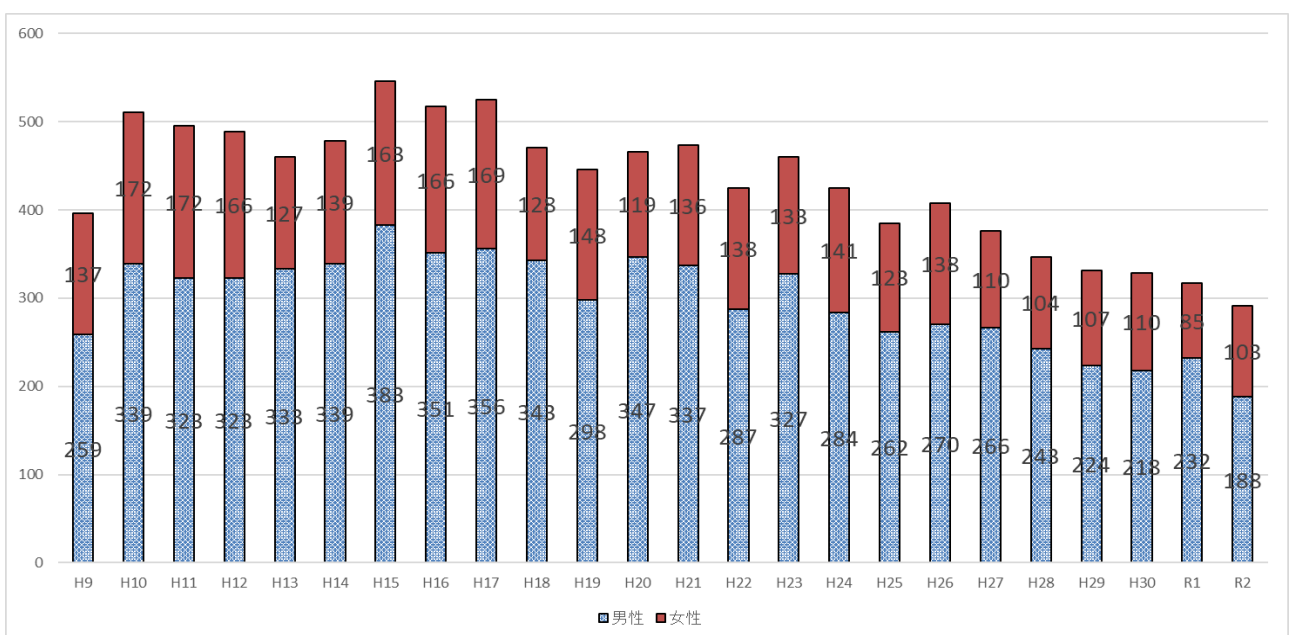
(図1) 全国・岐阜県自殺者数の年次推移

(資料:人口動態統計)



(図2) 岐阜県自殺者数の男女別の年次推移

(資料:人口動態統計)

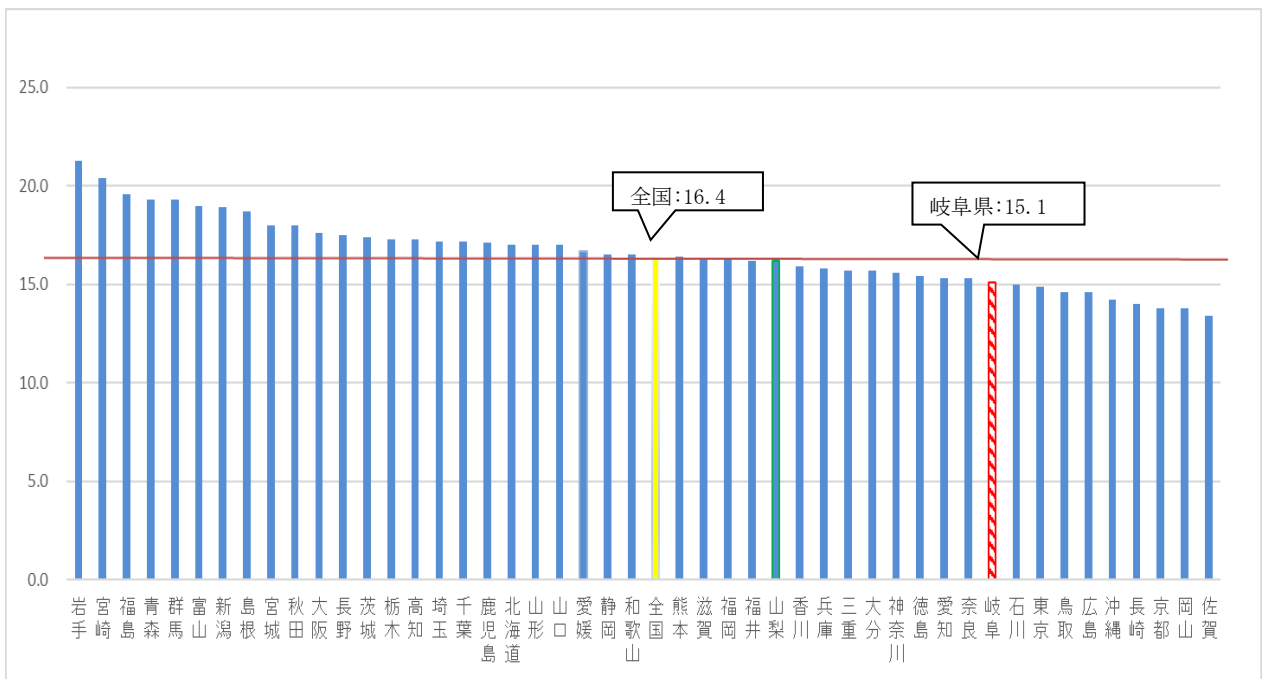


(2) 自殺死亡率の推移

- ・岐阜県の令和元（2019）年の自殺死亡率は16.3で全国15.7を上回っていましたが、令和2（2020）年の自殺死亡率は15.1で全国16.4を下回り、低い方からの順位は10位となりました（図3）。
- ・年齢階級別の自殺死亡率の年次推移では、おおむね減少傾向にありますが、10代、20代、30代の若者の年代で上昇傾向がみられます（図4。）
- ・岐阜県性別自殺死亡率の年次推移では、全国と同様に女性の自殺率が上昇しています（図5）。

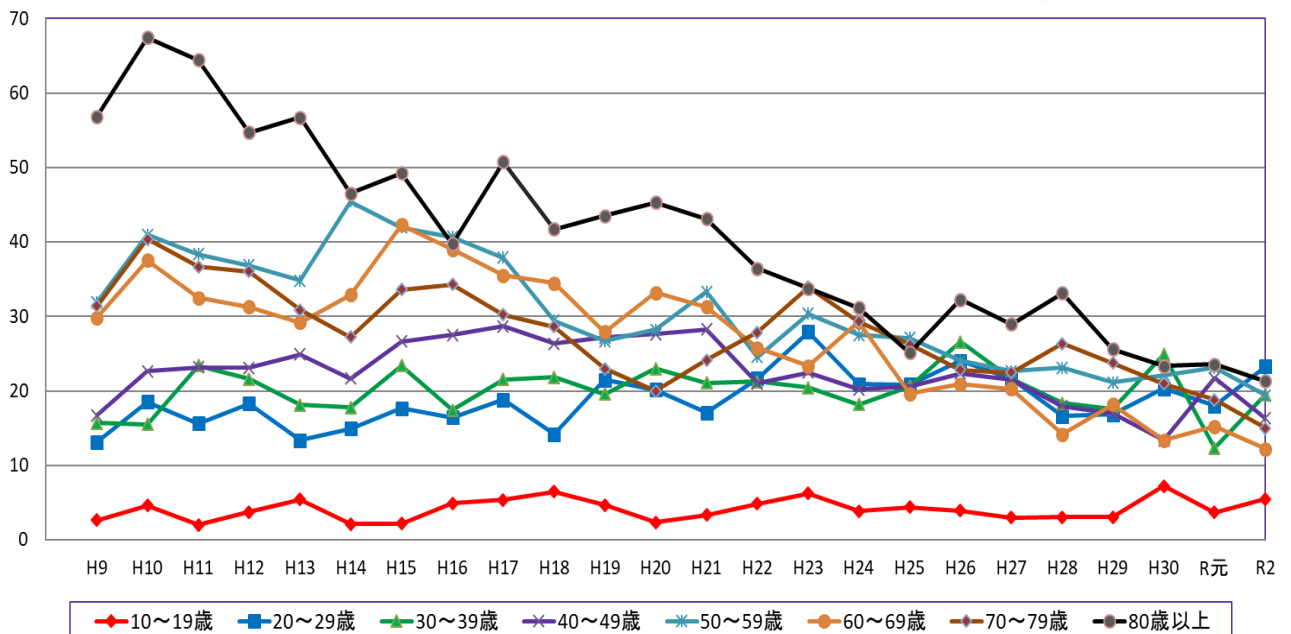
(図3) 令和2年全国・岐阜県自殺死亡率の比較

(資料：人口動態統計)

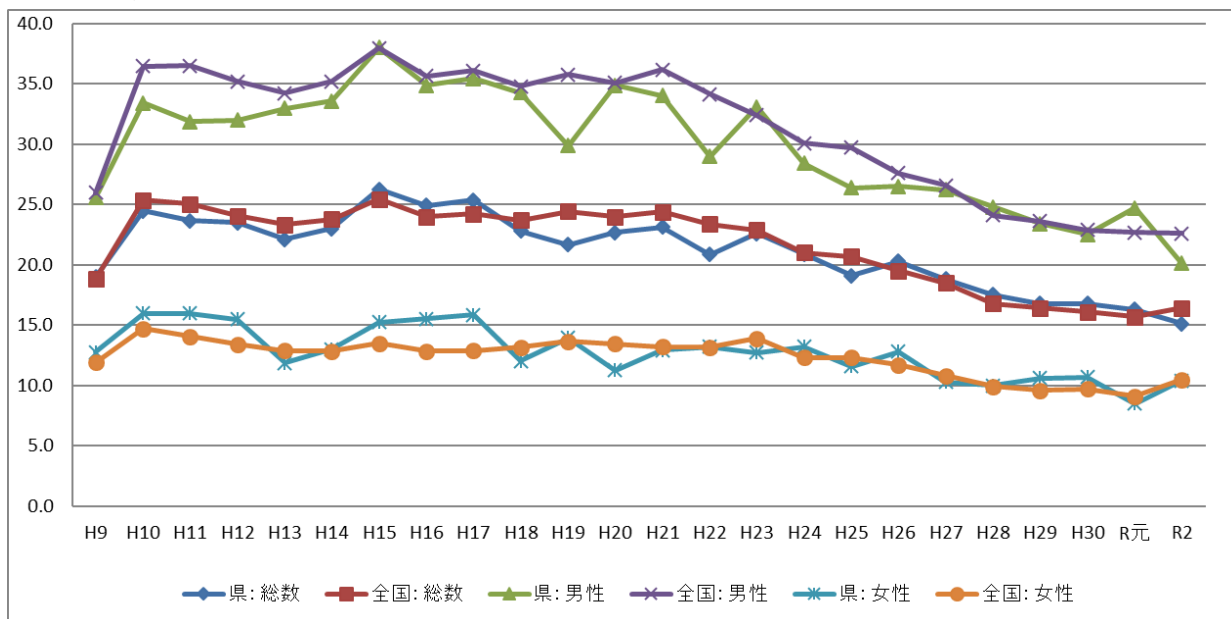


(図4) 岐阜県年齢階級別自殺死亡率の年次推移 (10万対)

(資料：人口動態統計)



(図5) 岐阜県性別自殺死亡率の年次推移



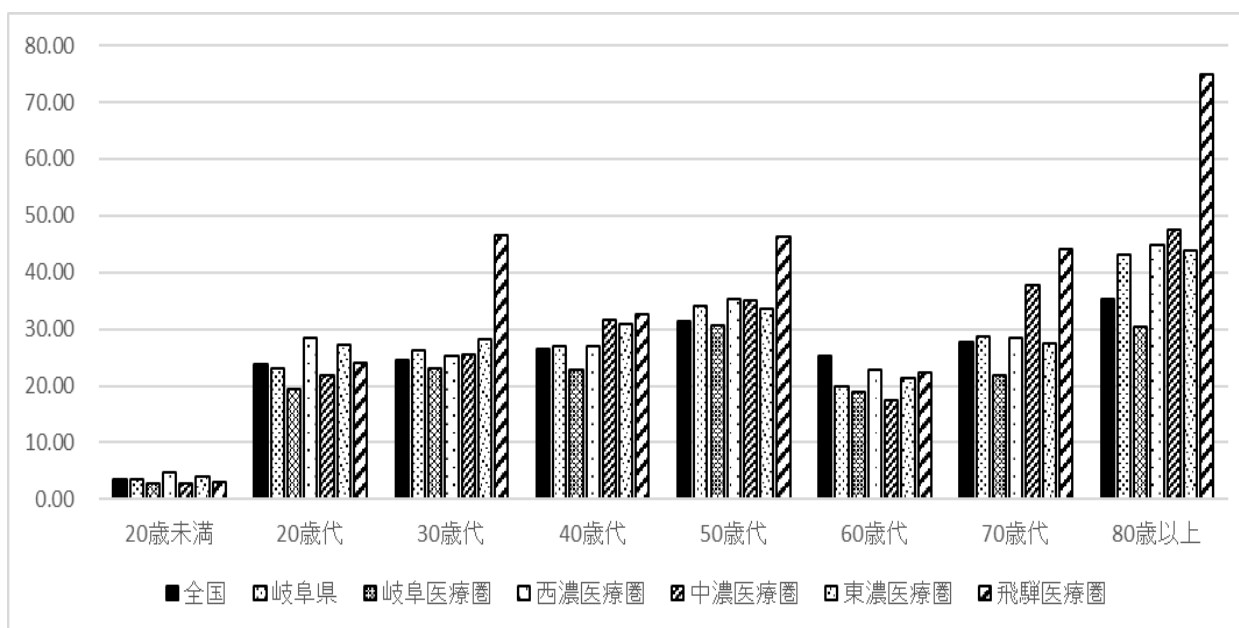
	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
県: 総数	19.0	24.5	23.7	23.5	22.1	23.0	26.3	24.9	25.4	22.8	21.7	22.7	23.1	20.8	22.6	20.9	19.1	20.3	18.8	17.5	16.8	16.8	16.3	15.1
全国: 総数	18.8	25.4	25.0	24.1	23.3	23.8	25.5	24.0	24.2	23.7	24.4	24.0	24.4	23.4	22.9	21.0	20.7	19.5	18.5	16.8	16.4	16.1	15.7	16.4
県: 男性	25.6	33.4	31.9	32.0	33.0	33.6	38.0	34.9	35.5	34.3	29.9	34.9	34.0	29.0	33.1	28.4	26.4	26.5	26.2	24.8	23.4	22.5	24.7	20.1
全国: 男性	26.0	36.5	36.5	35.2	34.2	35.2	38.0	35.6	36.1	34.8	35.8	35.1	36.2	34.2	32.4	30.1	29.7	27.6	26.6	24.1	23.6	22.9	22.7	22.6
県: 女性	12.8	16.0	16.0	15.5	11.9	13.0	15.2	15.5	15.8	12.0	13.9	11.3	12.9	13.2	12.7	13.2	11.6	12.8	10.3	10.0	10.6	10.7	8.5	10.4
全国: 女性	11.9	14.7	14.1	13.4	12.9	12.8	13.5	12.8	12.9	13.2	13.7	13.5	13.2	13.2	13.9	12.3	12.3	11.7	10.8	9.9	9.6	9.7	9.1	10.5

(自殺者数: 人口動態総計、人口: 人口推計)

(3) 年代別・医療圏域別の自殺死亡率

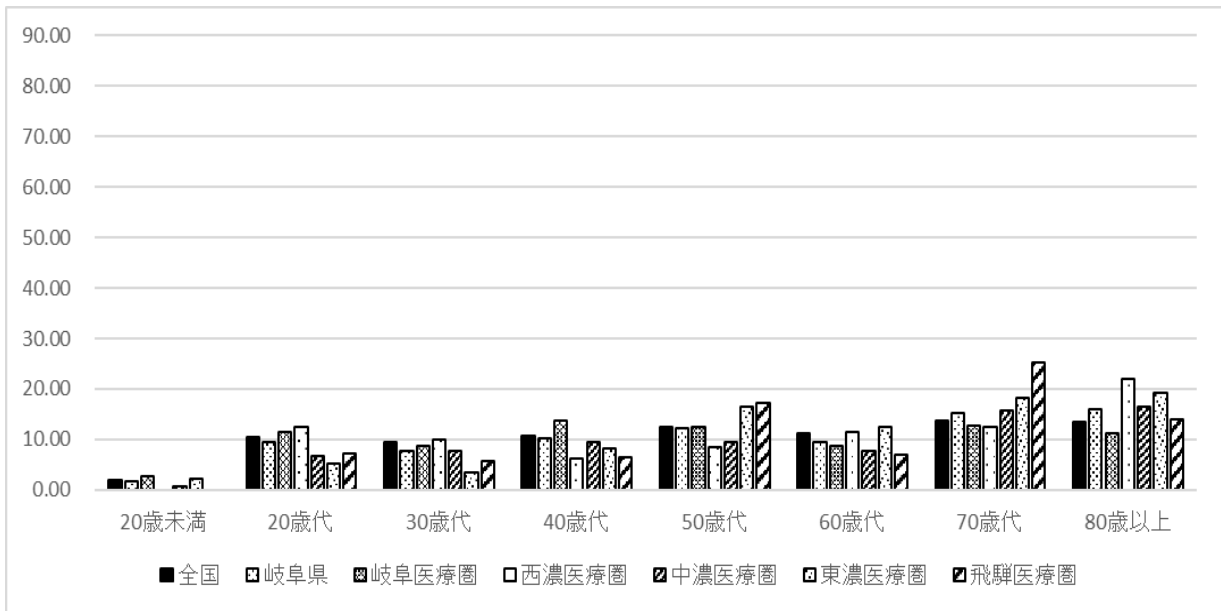
- ・男性は、30歳代、40歳代、50歳の働きざかりの年齢と80歳以上の自殺率が高い傾向にあり、30歳代、50歳代、70歳代、80歳代では飛騨医療圏が高いです(図6)。
- ・女性は、70歳代、80歳代で自殺率が高い傾向にあり、70歳代では飛騨医療圏が高く、80歳代では西濃医療圏で高いです(図7)。

(図6) 【男性】年代別・医療圏域別自殺死亡率(10万対)(2016年~2020年平均)



(資料: 自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール2021」)

(図7) 【女性】年代別・医療圏域別自殺死亡率 (10万対) (2016年～2020年平均)

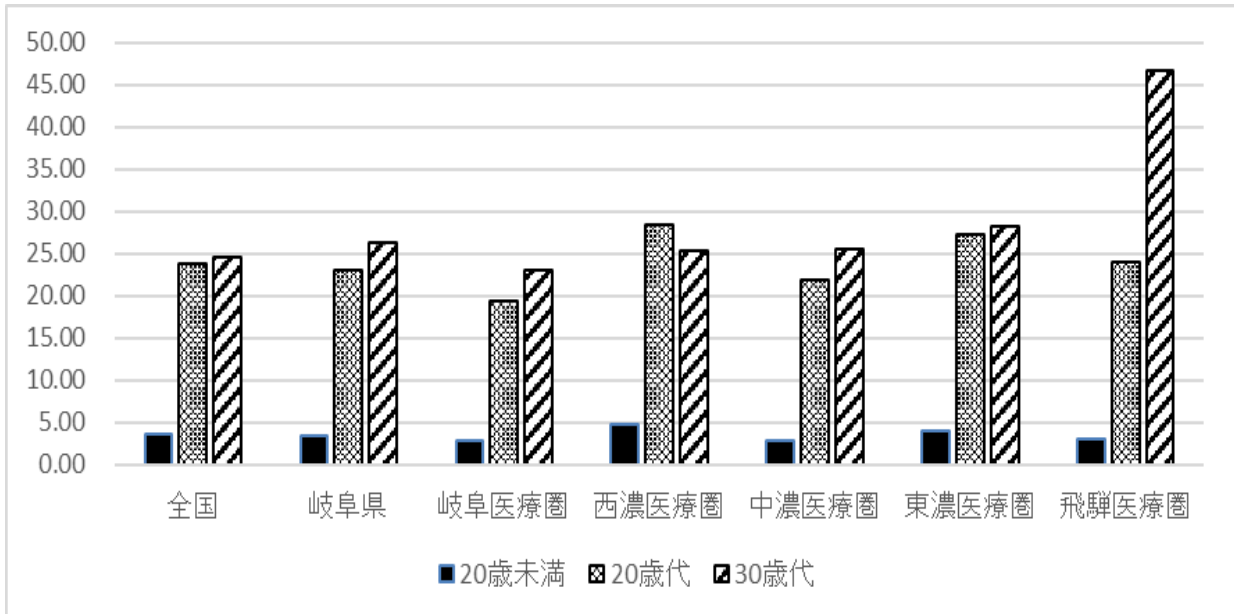


(資料:自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル2021」)

(4) 若者の自殺死亡率

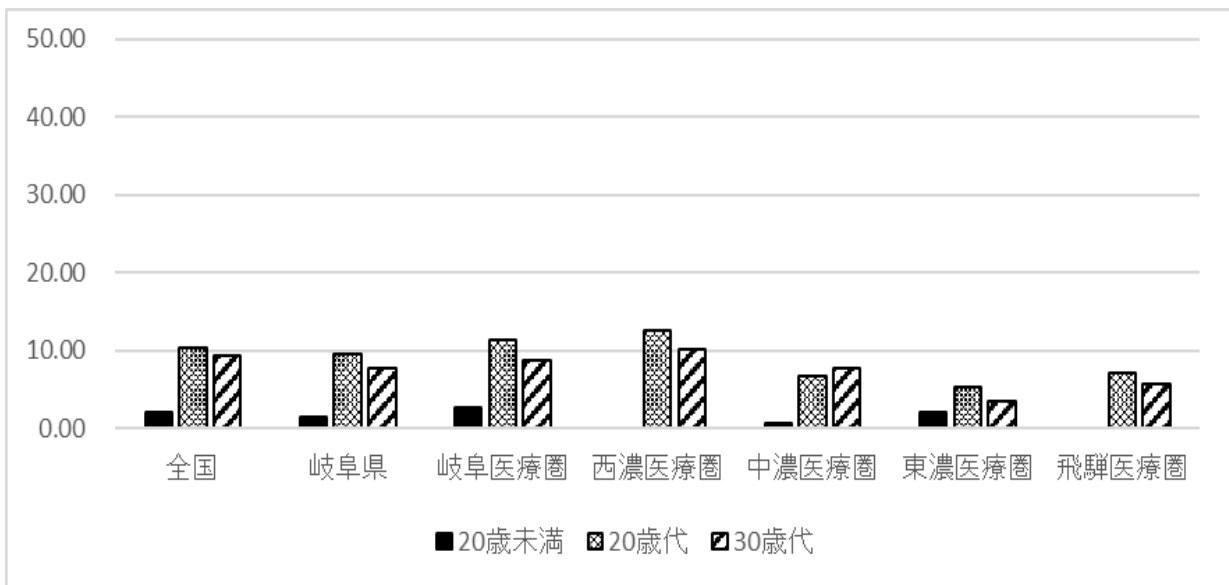
- ・若者の自殺死亡率では、男性は、全国同様20歳代より30歳代の自殺率が高い傾向にありますが、西濃医療圏では20歳代より30歳代の自殺死亡率が低いです(図8)。
- ・女性は、全国同様30歳代より20歳代の自殺率が高い傾向にありますが、中濃医療圏では30歳代より20歳代の自殺死亡率が低いです(図9)。

(図8) 【男性】若者の自殺死亡率 (10万対) (2016年～2020年平均)



(資料:自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル2021」)

(図9) 【女性】若者の自殺死亡率(人口10万対)(2016年~2020年平均)



(資料:自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル2021」)

(5) 年齢階級別の死因順位

- ・総数では15歳~39歳の死因第1位、10~14歳と40~44歳の第2位、45歳~59歳の第3位が自殺であり、若者と働き盛りの年代の上位を占めています(表1)。
- ・男性は20歳~44歳では第1位、15歳~19歳では第2位、45~49歳では第3位となります(表2)。
- ・女性は15歳~34歳では第1位、35歳~49歳では第2位、50~54歳では第3位となります(表3)。

(表1) 【総数】令和2年死亡数・死亡率(人口千対)(性・死因順位・年齢別)

総数	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			総数
	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	
総数	悪性新生物	6,043	3.05	心疾患(高血圧性を除く)	3,281	1.66	老衰	2,562	1.29	脳血管疾患	1,678	0.85	肺炎	1,231	0.62	22,720
0歳	先天奇形*	8	0.65	呼吸障害*	5	0.41	肺炎	2	0.16	出血性障害*	1	0.08	突然死症候群	1	0.08	22
1~4	先天奇形*	2	0.04	周産期に発生した病態	1	0.02			0.00			0.00			0.00	6
5~9	悪性新生物	4	0.05	不慮の事故	1	0.01			0.00			0.00			0.00	5
10~14	悪性新生物	2	0.02	自殺	2	0.02	心疾患(高血圧性を除く)	1	0.01	肺炎	1	0.01	先天奇形	1	0.01	10
15~19	自殺	8	0.08	不慮の事故	5	0.05	悪性新生物	2	0.02			0.00			0.00	16
20~24	自殺	24	0.26	不慮の事故	5	0.05	悪性新生物	2	0.02	その他の新生物	1	0.01	心疾患(高血圧性を除く)	1	0.01	38
25~29	自殺	14	0.16	心疾患(高血圧性を除く)	3	0.03	悪性新生物	2	0.02	不慮の事故	2	0.02	脳血管疾患	1	0.01	31
30~34	自殺	17	0.18	悪性新生物	10	0.11	不慮の事故	6	0.06	敗血症	1	0.01	その他の新生物	1	0.01	47
35~39	自殺	20	0.19	悪性新生物	19	0.18	心疾患(高血圧性を除く)	7	0.06	不慮の事故	5	0.05	脳血管疾患	4	0.04	63
40~44	悪性新生物	24	0.19	自殺	20	0.16	心疾患(高血圧性を除く)	8	0.06	不慮の事故	8	0.06	脳血管疾患	2	0.02	80
45~49	悪性新生物	65	0.43	心疾患(高血圧性を除く)	24	0.16	自殺	24	0.16	脳血管疾患	18	0.12	不慮の事故	15	0.10	201
50~54	悪性新生物	104	0.79	心疾患(高血圧性を除く)	31	0.23	自殺	24	0.18	脳血管疾患	18	0.14	肝疾患	9	0.07	263
55~59	悪性新生物	173	1.38	心疾患(高血圧性を除く)	47	0.37	自殺	25	0.20	肝疾患	22	0.18	脳血管疾患	20	0.16	391
60~64	悪性新生物	261	2.17	心疾患(高血圧性を除く)	61	0.51	脳血管疾患	33	0.27	大動脈瘤及び解離	19	0.16	自殺	17	0.14	534
65~69	悪性新生物	496	3.67	心疾患(高血圧性を除く)	113	0.84	脳血管疾患	52	0.38	不慮の事故	40	0.30	肺炎	24	0.18	1,045
70~74	悪性新生物	902	5.80	心疾患(高血圧性を除く)	223	1.43	脳血管疾患	107	0.69	不慮の事故	67	0.43	肺炎	53	0.34	1,933
75~79	悪性新生物	962	6.11	心疾患(高血圧性を除く)	312	2.63	脳血管疾患	202	1.70	肺炎	131	1.10	不慮の事故	109	0.92	2,572
80~84	悪性新生物	1,113	7.26	心疾患(高血圧性を除く)	489	3.39	脳血管疾患	291	2.11	老衰	217	1.59	肺炎	186	1.36	3,732
85~89	悪性新生物	1,063	7.10	心疾患(高血圧性を除く)	791	5.27	老衰	550	3.85	脳血管疾患	411	2.86	肺炎	338	2.41	4,872
90~	老衰	1,729	11.27	心疾患(高血圧性を除く)	1,169	7.79	悪性新生物	839	5.85	脳血管疾患	516	3.62	肺炎	476	3.36	6,859

(資料:人口動態統計)

(表2) 【男性】令和2年死亡数・死亡率(人口千対)(性・死因順位・年齢別)

男性	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			総数
	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	
総数	悪性新生物	3,495	3.64	心疾患(高血圧性を除く)	1,514	1.58	脳血管疾患	786	0.82	肺炎	735	0.77	老衰	701	0.73	11,506
0歳	呼吸障害*	4	0.64	先天奇形*	3	0.48	肺炎	1	0.16	出血性障害*	1	0.16	突然死症候群	1	0.16	14
1~4	先天奇形*	2	0.07			0.00			0.00			0.00			0.00	3
5~9	悪性新生物	1	0.02			0.00			0.00			0.00			0.00	1
10~14	悪性新生物	1	0.02	心疾患(高血圧性を除く)	1	0.02	不慮の事故	1	0.02	自殺	1	0.02			0.00	5
15~19	不慮の事故	5	0.10	自殺	5	0.10	悪性新生物	2	0.04			0.00			0.00	13
20~24	自殺	12	0.25	不慮の事故	3	0.06	悪性新生物	2	0.04	心疾患(高血圧性を除く)	1	0.02			0.00	21
25~29	自殺	10	0.22	心疾患(高血圧性を除く)	3	0.07	不慮の事故	2	0.04	悪性新生物	1	0.02			0.00	21
30~34	自殺	12	0.25	悪性新生物	6	0.12	不慮の事故	5	0.10	救血症	1	0.02	心疾患(高血圧性を除く)	1	0.02	33
35~39	自殺	16	0.29	悪性新生物	10	0.18	心疾患(高血圧性を除く)	5	0.09	不慮の事故	5	0.09	脳血管疾患	3	0.05	44
40~44	自殺	14	0.22	悪性新生物	8	0.12	心疾患(高血圧性を除く)	7	0.11	不慮の事故	6	0.09	その他の新生物	1	0.02	50
45~49	悪性新生物	30	0.39	心疾患(高血圧性を除く)	22	0.29	自殺	15	0.20	脳血管疾患	12	0.16	不慮の事故	11	0.14	126
50~54	悪性新生物	47	0.71	心疾患(高血圧性を除く)	24	0.36	脳血管疾患	17	0.26	自殺	17	0.26	不慮の事故	7	0.11	161
55~59	悪性新生物	89	1.45	心疾患(高血圧性を除く)	35	0.57	肝疾患	18	0.29	自殺	15	0.24	不慮の事故	12	0.20	242
60~64	悪性新生物	139	2.38	心疾患(高血圧性を除く)	50	0.86	脳血管疾患	19	0.33	大動脈瘤及び解離	16	0.27	自殺	13	0.22	338
65~69	悪性新生物	318	4.90	心疾患(高血圧性を除く)	84	1.29	脳血管疾患	35	0.54	不慮の事故	24	0.37	肺炎	19	0.29	706
70~74	悪性新生物	605	8.14	心疾患(高血圧性を除く)	143	1.92	脳血管疾患	68	0.91	不慮の事故	50	0.67	肺炎	45	0.61	1,309
75~79	悪性新生物	614	11.39	心疾患(高血圧性を除く)	178	3.30	脳血管疾患	124	2.30	肺炎	97	1.80	不慮の事故	70	1.30	1,620
80~84	悪性新生物	682	17.79	心疾患(高血圧性を除く)	269	7.02	脳血管疾患	162	4.23	肺炎	135	3.52	老衰	101	2.63	2,190
85~89	悪性新生物	582	25.70	心疾患(高血圧性を除く)	356	15.72	肺炎	222	9.80	脳血管疾患	199	8.79	老衰	190	8.39	2,452
90~	老衰	369	35.26	悪性新生物	358	34.21	心疾患(高血圧性を除く)	335	32.01	肺炎	203	19.40	脳血管疾患	137	13.09	2,157

(資料:人口動態統計)

(表3) 【女性】令和2年死亡数・死亡率(人口千対)(性・死因順位・年齢別)

女性	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			総数
	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	
総数	悪性新生物	2,548	2.50	老衰	1,861	1.83	心疾患(高血圧性を除く)	1,767	1.74	脳血管疾患	892	0.88	肺炎	496	0.49	11,214
0歳	先天奇形*	5	0.83	肺炎	1	0.17	呼吸障害*	1	0.17			0.00			0.00	8
1~4	周産期に発した病態	1	0.04			0.00			0.00			0.00			0.00	3
5~9	悪性新生物	3	0.07	不慮の事故	1	0.02			0.00			0.00			0.00	4
10~14	悪性新生物	1	0.02	肺炎	1	0.02	先天奇形	1	0.02	自殺	1	0.02			0.00	5
15~19	自殺	3	0.06			0.00			0.00			0.00			0.00	3
20~24	自殺	12	0.26	不慮の事故	2	0.04	その他の新生物	1	0.02			0.00			0.00	17
25~29	自殺	4	0.10	悪性新生物	1	0.02	脳血管疾患	1	0.02	全身性疾患及び腎臓病関連性疾患	1	0.02			0.00	10
30~34	自殺	5	0.11	悪性新生物	4	0.09	その他の新生物	1	0.02	不慮の事故	1	0.02			0.00	14
35~39	悪性新生物	9	0.17	自殺	4	0.08	心疾患(高血圧性を除く)	2	0.04	脳血管疾患	1	0.02			0.00	19
40~44	悪性新生物	16	0.26	自殺	6	0.10	不慮の事故	2	0.03	心疾患(高血圧性を除く)	1	0.02	脳血管疾患	1	0.02	30
45~49	悪性新生物	35	0.47	自殺	9	0.12	脳血管疾患	6	0.08	不慮の事故	4	0.05	肝疾患	3	0.04	75
50~54	悪性新生物	57	0.86	心疾患(高血圧性を除く)	7	0.11	自殺	7	0.11	肝疾患	5	0.08	脳血管疾患	4	0.06	102
55~59	悪性新生物	84	1.31	心疾患(高血圧性を除く)	12	0.19	脳血管疾患	11	0.17	自殺	10	0.16	不慮の事故	5	0.08	149
60~64	悪性新生物	122	1.97	脳血管疾患	14	0.23	心疾患(高血圧性を除く)	11	0.18	不慮の事故	6	0.10	肺炎	4	0.06	196
65~69	悪性新生物	178	2.53	心疾患(高血圧性を除く)	29	0.41	脳血管疾患	17	0.24	不慮の事故	16	0.23	腎不全	8	0.11	339
70~74	悪性新生物	297	3.66	心疾患(高血圧性を除く)	80	0.99	脳血管疾患	39	0.48	大動脈瘤及び解離	17	0.21	不慮の事故	17	0.21	624
75~79	悪性新生物	348	5.37	心疾患(高血圧性を除く)	134	2.07	脳血管疾患	78	1.20	不慮の事故	39	0.60	肺炎	34	0.52	952
80~84	悪性新生物	431	8.22	心疾患(高血圧性を除く)	220	4.20	脳血管疾患	129	2.46	老衰	116	2.21	不慮の事故	59	1.13	1,542
85~89	悪性新生物	481	12.17	心疾患(高血圧性を除く)	435	11.00	老衰	360	9.11	脳血管疾患	212	5.36	肺炎	116	2.93	2,420

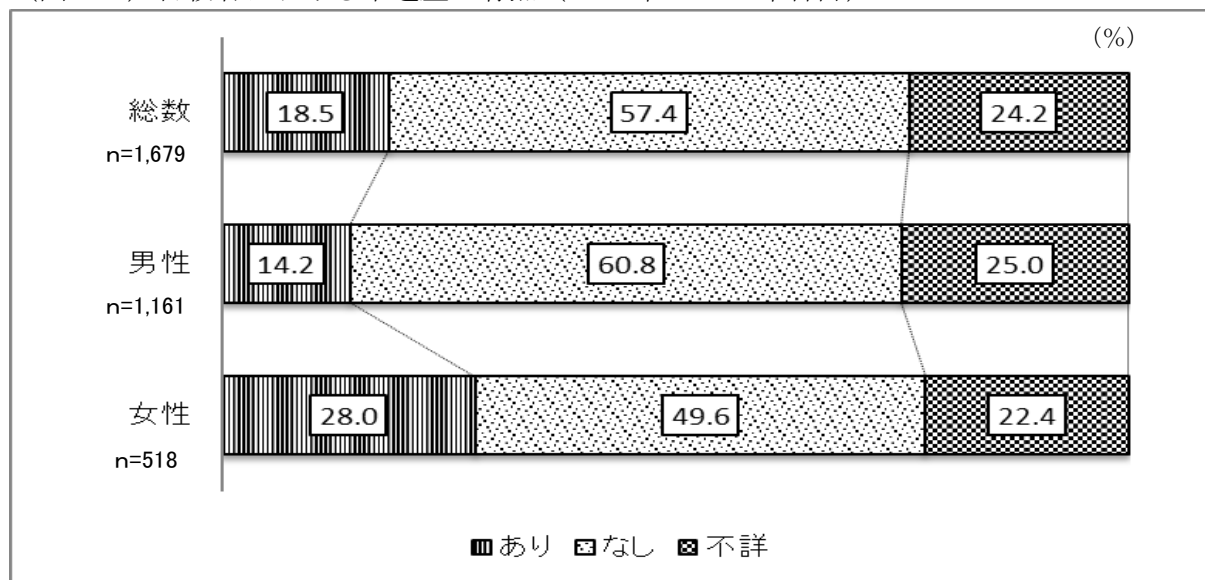
(資料:人口動態統計)

注) 表1~3にある「先天奇形」は先天奇形、変形及び染色体異常、「呼吸障害」は周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害、「出血性障害」は胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害を表す。

(6) 自殺者における未遂歴の有無

- ・自殺者における未遂歴の有無では、男性は6割強の方が自殺未遂歴なく亡くなっていますが、女性は5割弱の方が自殺未遂歴ありで亡くなっています(図10)。

(図10) 自殺者における未遂歴の有無(2016年～2020年合計)



(資料：自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル2021」)

(7) 原因・動機別自殺者数

- ・原因・動機別では、男性は「不詳」が最も多く、次に「健康問題」「経済・生活問題」が続く、女性では「健康問題」が最も多く、次に「不詳」「家庭問題」と続きます(図11)。

(図11) 原因・動機別の自殺者数

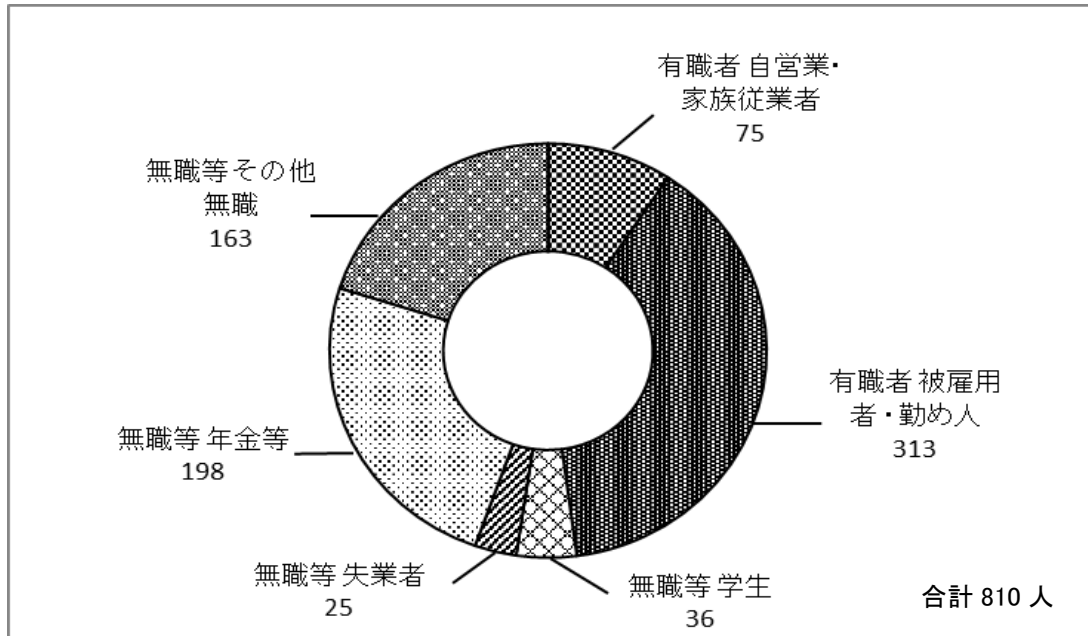
	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他	不詳	計
男性	17	69	36	32	3	3	13	85	258
女性	18	63	5	8	3	2	6	33	138
総数	35	132	41	40	6	5	19	118	396

自殺の統計：地域における自殺の基礎資料(令和2年)

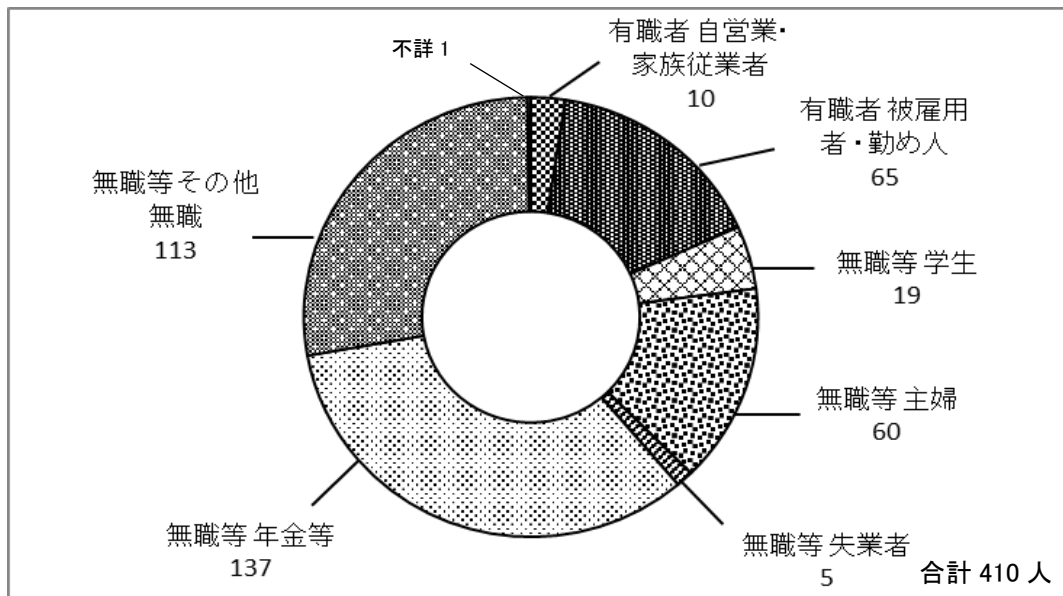
(8) 職業別自殺者数 (同居有り)

・職業別では、男性は有職者被雇用者・勤め人が最も多く (図1 2)、女性は無職等・年金等が最も多くなっています (図1 3)。

(図1 2) 【男性】職業別の自殺者数 (同居有り) (2016年～2021年合計)



(図1 3) 【女性】職業別の自殺者数 (同居有り) (2016年～2020年合計)



(資料:自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル2021」)